

2020 年度修士論文

修士論文執筆要領

—生涯学習基盤経営コースにおける執筆要領—

東京大学大学院 教育学研究科

総合教育科学専攻

生涯学習基盤経営コース

23-XXXXX 本郷 弥生

指導教員：東大太郎 教授

目次

第 1 章	はじめに	3
1.1	はじめに	3
1.2	原稿について	3
1.3	段落スタイルについて	3
第 2 章	全体的なレイアウトについて	4
2.1	本テンプレートファイルについて	4
2.2	各構成要素別のレイアウトについて	5
2.3	引用・参考文献	10
2.4	論文の製本について	13
参考文献		14

第 1 章

はじめに

1.1 はじめに

この文章は教育行政コースの卒業論文，の L^AT_EX 版テンプレートファイルです。この文章自体が執筆要領を兼ねております。このファイルをそのまま使用して論文を作成することができます。本稿をよく読み，論文を執筆してください。

1.2 原稿について

用紙サイズは A4 版とします。以下で示す標題紙，目次，本文（注を含む）を作成し左綴じで製本した上で提出してください。

1.3 段落スタイルについて

Word®版のテンプレートファイルでは，目次の付与と章，節，項のデザインを整えるために Word®の段落スタイル機能を使用していました。L^AT_EX 版では tableofcontents 命令と chapter, section, subsection, subsubsection 命令を使うことで同等の出力が得られることから，これらの命令を使って作成を行ってください。

第 2 章

全体的なレイアウトについて

2.1 本テンプレートファイルについて

2.1.1 本テンプレートファイルの構造

本テンプレートファイルは \LaTeX での作成の便宜を図るため、入力する情報の種類ごとに入力エリアを設けています。各エリアの境目はコンパイルの際にエラーとならないよう、コメントアウトの方法でタイトルラベルを示しています。例えば、

```
%-----タイトル紙作成エリア-----%
```

とあれば、ここからタイトル紙作成エリアであることを示します。本テンプレートファイルに設定されているエリアは以下の 5 つです。

1. 必須エリア
2. タイトル紙作成エリア
3. 目次エリア
4. 本文エリア
5. 参考文献エリア

このうち、必須エリアは \LaTeX のコンパイルをするために必要不可欠なエリアであり、この間の情報がないとコンパイルが適切に行われませんので、必須エリアの情報を変更するときには注意してください。

必須エリアで記述している情報はそれぞれ次のような意味を持っています。

```
\documentclass[a4paper,11pt,oneside,openany]{jsbook}
```

\TeX ファイルの最初に書く、文章全体の定義をする箇所です。ここでは、A4 サイズで本文のフォントを 11pt に設定し、jsbook クラスの書式に則ったファイルであることが宣言されています。

```
\usepackage{graphicx,enumerate}
```

```
\pagestyle{plain}
```

```
\setlength{\textwidth}{\fullwidth}
```

```
\setlength{\evensidemargin}{\oddsidemargin}
```

本テンプレートファイルで用いる外部パッケージの名前を宣言しています。graphicx は画像ファイルを本文に挿入するため、enumerate は数字での箇条書きの書式を整えるために使用しています。それ以下 3 行は、全て T_EX で書式を整えるために必要な行ですので、特段の必要がない場合は変更しないようにして下さい。

```
\begin{document}
```

```
....
```

```
\end{document}
```

入力する文章はすべてこの document 環境の間に書きます。よって、一般的には T_EX ファイルの最後は \end{document} で終わるようになっています。

2.1.2 段組および字数・行数

原稿本文については一段組 1 行 45 字程度で、縦は 35 行程度で設定します。本テンプレートの場合ほぼこの規定に沿った出力が得られます。

2.1.3 文字サイズと字体

L^AT_EX の場合は、ファイル冒頭のドキュメントクラスとして jsbook クラスを用いてオプションを a4paper, 11pt に設定してください。例えば、jsarticle を用いた場合には冒頭の documentclass の命令は次の通りとなります^{*1}。

<例>

```
\documentclass[a4paper,11pt,oneside,openany]{jsbook}
```

2.1.4 句読点

句読点は、日本語については、句点として “。” 読点として “,” をそれぞれ用いてください。英語については半角のピリオドと半角スペース、読点は半角のカンマ並びに半角スペースを使用してください。

2.2 各構成要素別のレイアウトについて

2.2.1 論文の構成要素

論文の構成要素、並びに順序は次の通りです：

^{*1} Windows[®]で日本語キーボードを使用している場合は、\ の部分を半角の ¥ (円マーク) に適宜読み替えて入力してください。

1. 標題紙
 - (a) 論文種別・年度
 - (b) タイトル
 - (c) サブタイトル
 - (d) 著者所属・学籍番号・著者氏名・指導教員名
2. 目次
3. 本文（文末注を含む）

2.2.2 標題紙

標題紙は論文の一番最初に以下の情報を 1 ページで記載した上で、添付します。本テンプレートファイルを利用する場合は、以下の情報から始まるエリアに情報を入力することで、標題紙が最初のページとして出力されます。

%-----標題紙作成エリア-----%

論文種別・年度

標題紙作成エリアの 1 行目から 3 行目は論文種別を記入する箇所です。提出年度に合わせて“2014”の箇所を変更してください。

タイトル

論文タイトルは中央寄せの明朝体で記入します。本テンプレートの場合は標題紙作成エリアの 4 行目からの

%% 次の\begin{center}から\end{center}内にタイトルを記入。

\begin{center}

修士論文執筆要領

\end{center}

“修士論文執筆要領”の部分を個々のタイトルに書き換えてください。

サブタイトル

サブタイトルを付与する場合は中央寄せの明朝体で記入します。本テンプレートの場合は標題紙作成エリアの 8 行目からの

\Large

\begin{center}

---生涯学習基盤経営コースにおける執筆要領---

\end{center}

“—生涯学習基盤経営における執筆要領—”の箇所を個々のサブタイトルに置き換えて下さい。なお、サブタイトルの前後はハイフン（ \LaTeX の場合は---のように半角のハイフンを3つ連続させます。）を記入してください。サブタイトルを付与しない場合は \smallskip という命令をサブタイトルの欄に記入してください（レイアウト保持のため）。

著者所属・学籍番号・著者氏名・指導教員名

中央寄せの明朝体で、「総合教育科学専攻」「生涯学習基盤経営コース」と記入します。このテンプレートを使う場合は書き換える必要はありません。本テンプレートの場合は、標題紙作成エリアの14行目から該当します。

```
\normalsize %14
\begin{center}
東京大学大学院 教育学研究科\\
総合教育科学専攻\\
生涯学習基盤経営コース\\
23-XXXXX 本郷 弥生\\
指導教員：東大太郎 教授
\end{center}
\normalsize
```

1行目から3行目の末尾にある“\\”は強制改行の命令ですので、そのままにしてください。

1行目から2行目は変更の必要はありません。

3行目は学籍番号と氏名を記入する欄です。23から始まる学籍番号を記入し、全角のスペースを1文字分挿入した後、氏名を記入してください。姓と名の間は全角のスペースを1文字挿入します。

4行目は指導教員の名前を記入する欄です。“東大太郎 教授”の箇所をあなたの指導教員の名前と役職に書き換えてください。

2.2.3 目次

目次は標題紙の次のページに添付します。本文で示した章、節、項のタイトルからなる目次を付与してください。 \LaTeX の場合は、本文で適切にchapter命令、section命令、subsection命令、subsubsection命令をもちいて、章、節、項、目のタイトルが記載されていれば、tableofcontents命令を挿入することで、コンパイル時に自動で目次が作成されます。章、節、項のタイトルの付け方は、2.2.4を参照してください。（文章を変更した場合は必ずコンパイルを2回かけてください。目次の項目が反映されない可能性があります。）

本テンプレートの場合は、以下のような記述となっています。

```
%-----目次エリア-----%
\thispagestyle{empty}
```

`\tableofcontents`

2.2.4 本文

目次のページの 1 ページあとから、本文を記述してください。本テンプレートファイルでは、本文を記述する箇所のエリアの最初には、というラベルを設定しています。本文エリアの後にも、参考文献エリアと必須エリアが記載されていますので、本文エリアを一括削除して論文を書こうとする場合には、後のエリアを間違えて消さないように気をつけてください。

章、節、項のタイトル

本文中の章、節、項などの立て方は原則として、以下の例に従ってください。

1. 章タイトル

1.1 節タイトル

1.1.1 項タイトル

L^AT_EX の場合は、章タイトルを記述する際には、chapter 命令を使い、以下、節タイトルには section 命令を、項タイトルには subsection 命令を用いてください*²。

ソース上では次のように記述します。

```
\chapter{章タイトル}
\section{節タイトル}
\subsection{項タイトル}
\subsubsection{目タイトル}
```

図、表

図、表は本文中の適当な箇所に挿入してください。

(1) 図について

下記のように、figure コマンドと includegraphics を使用し、図の下部に対応する caption を設定してください。

```
\begin{figure}[ht]
\begin{center}
\includegraphics[width=120pt]{test.eps}
\end{center}
\caption{図の例}
```

*² 目タイトルとしては subsection 命令も使えますが、その場合はナンパリングが振られず、目次にも反映されないので注意が必要です。


```
\end{figure}
```

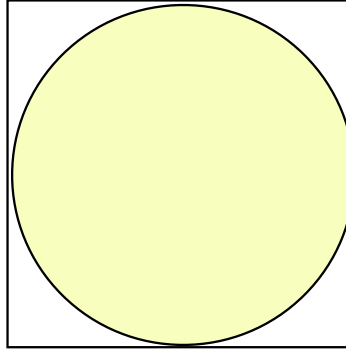


図 2.1 図の例

(2) 表について

下記のように, `table` コマンドと `tabular` コマンドを使用し, 表の下部に対応する `caption` を設定してください。

```
\begin{table}[ht!]
\begin{center}
\begin{tabular}{ccc} \hline
&記号 &用法 & \hline
<以下略>
\end{tabular}
\caption{特定の記号の用法}
\end{center}
\end{table}
```

	記号	用法
1	()	説明・その他付加的に記述する事柄
2	“ ”	引用箇所の表示
3	<i>Italic</i>	文中における欧文の書名・誌名
4	『 』	文中における和文の書名・誌名

表 2.1 特定の記号の用法

文章・表記など

文章は原則として常用漢字と現代仮名遣いを用いてください。なお、以下の記号は特定の用法で使ってください（表 1 参照）。

（ ） 説明・その他付加的に記述する事柄

“ ” 引用箇所を表示

Italic 文中における欧文の書名・誌名

『 』 文中における和文の書名・誌名

2.3 引用・参考文献

本文中に他の文献からの引用を含める場合には、引用符「“ ”」を用いて記述してください。また、下記のように、quote 環境あるいは quotation 環境を用いることも可能です。いずれの引用方法でも、末尾に一連番号を付与した上で、出典を記載してください。形式が一貫している限りで、別の記載方法をとっても構いません。なお、他の文献の内容・文言を論文中で用いるときには、直接の引用であるか言い換えた上での内容の利用であるかにかかわらず、出典を明記する必要があります。

例 1

澤田昭夫は良い論文について“よい論文は統一 unity, 連関 coherence, 展開 development において優れた論文あるいは明確性 clarity において優れた論文” [1, p. 19] であると述べている。

例 1 のソースは以下の通りです。

澤田昭夫は良い論文について“よい論文は統一 unity, 連関 coherence, 展開 development において優れた論文あるいは明確性 clarity において優れた論文”`”~\cite[p. 19]{澤田}`であると述べている。

例 2

澤田は論文執筆の際に次のようなことが重要だと述べている。

論文書きでもっとも大切なのは、問を疑問文の形で切り出すことで、それがレトリックで言う発見・構想です。もっとも大切だというのは、それができればつまり全体を貫く主な問が何であるかを確定することができれば、論文の首尾一貫性、統一性を保証する基本的条件が整ったことになるからです。

そのつぎに大切なのは、論文の構成、材料の配置です。その際、肝に銘じなければならないのは、構成・配置の大原則は起承転結ではなく、序・本・結（序と本論と結び）だということです [1, p. 74]。

例 2 のソースは以下の通りです。

澤田は論文執筆の際に次のようなことが重要だと述べている。

`\begin{quote}`

論文書きでもっとも大切なのは、問を疑問文の形で切り出すことで、それがレトリックで言う発見・構想です。もっとも大切だというのは、それができればつまり全体を貫く主な問が何であることを確定することができれば、論文の首尾一貫性、統一性を保証する基本的条件が整ったことになるからです。

そのつぎに大切なのは、論文の構成、材料の配置です。その際、肝に銘じなければならないのは、構成・配置の大原則は起承転結ではなく、序・本・結（序と本論と結び）だということです\cite[p. 74]{澤田}。

`\end{quote}`

2.3.1 書誌事項の記載形式

引用・参考文献の書誌事項の記載形式は、原則として以下の通りとします。なお、以下で {} の部分は、必要に応じて記載する項目です。またイタリック体（斜体字）を用いる代わりに下線を引いても良いものとします。

LaTeX の場合は、thebibliography 環境を用いて、次のように記載します。

`\begin{thebibliography}{10}`

`\bibitem{澤田}`

澤田昭夫. 『論文のレトリック』

講談社学術文庫, 講談社, 1983, 330p.

`\end{thebibliography}`

なお、LaTeX 環境で bibtex を文献管理に使用した場合には実現しづらい記載もありますので、一連番号の形式が一貫している限りで、別の記載方法をとっても構いません。

図書の場合

和：著編者名 『書名』 { 版表示, } { 出版地, } 出版社, 出版年, { 総ページ数, } 当該部分のページ.

洋：author. *title*. {edition,} place of publication, publisher, year, {total page,} page.

近藤二郎 『社会科学のための数学入門』 東京経済新報社, 1973, p. 37–40.

Barzun, Jacques and Graff, H. F. *The Modern Researcher*. Rev. ed.,

New York, Harcourt, 1970, p. 165.

翻訳書の場合

和：著編者名 『書名』 [原書名 (イタリックで記載) { 版表示, } { 出版地, } 出版社, 出版年,] 翻訳者名, 出版社, 出版年, { 総ページ数, } 当該部分のページ.

洋：author. *title of translation* [*original title*. {edition,} place of publication, publisher, year,] name of translator, place of publication, publisher, year, {total page,} page.

Varles, Jana ed. 『情報の要求と探索』 [*Information Seeking: Basing Services on User's Behaviors*. North Calolina, McFarland & Company, 1987] 池谷のぞみ, 市古健次, 白石英理子, 田村俊作訳, 勁草書房, 1993, p. 10.

Schneider, Georg. *Theory and History of Bibliography*. [*Handbuch der Bibliographie*. e Aufl., Berlin, Knoop, 1978,] tr. by R. R. Shaw, New York, Columbia University Press, 1934, p. 14–15.

編集書の一部（図書形態の論文集の一論文を含む）の場合

和：当該部分の執筆者名 “当該部分の題名” < 編者名 『書名』 { 版表示,} { 出版地,} 出版社, 出版年 > { 総ページ数,} 当該部分のページ.

洋：author. “*title*”. <editor. *book title*, {edition,} place of publication, publisher, year> {total page,} page.

宮坂広作 “余暇と社会教育” < 碓井正久編著 『社会教育』 第一法規, 1970> p. 201–203.

Groom, Geoffrey. “Bibliography of older material” <Garvin, L. H. ed. *Printed Reference Material*. 2nd ed., London, Library Association, 1984> p. 456–501.

逐次刊行物掲載記事（雑誌論文を含む）の場合

和：執筆者名 “論題名” 『掲載逐次刊行物名』 vol. XX, {no. XX,} 発行年 { 月 }, 当該部分のページ.

洋：author. “*title*,” *name of periodical*, vol. XX, {no. xx,} year{month}, page.

小野寺夏生 “‘Bibliostatistics’: 情報現象の統計学的説明” 『情報管理』 vol. 21, no. 10, 1979, p. 782–802.

小野寺夏生, 中井浩 “単純なモデルからの Zipf の法則の導入” 『情報科学技術研究集会論文集』 vol. 33, no. 3, 1977, p. 129–138.

Brookes, Bertram C. “Theory of the Bradford Laws,” *Journal of Documentation*, vol. 33, no. 3, 1977, p. 180–209.

Nelson, Micheal J. and Tague, Jean M. “Sprit Size-Rank Models for the Distribution of Index Terms,” *Journal of the American Society for Information Science*, vol. 36, no. 5, 1985, p. 283–296.

Web 上のリソースについて

Web 上のリソースについては、書誌情報の最後に “入手先 URL, (アクセス日)” (“available from (URI), (accessed date)”) を記入します。それ以外の項目は図書並びに逐次刊行物掲載記事の規定に準

じ、入手先の情報から明らかである項目を記述します。

情報メディア学会. 『『情報メディア研究』への各種原稿の投稿について』 入手先 URI:
<http://www.jsims.jp/toko.html> (参照: 2008-10-27)

2.4 論文の製本について

論文は必ず、左綴じで製本して提出してください。また、製本後の表紙にも標題ページを記載します。詳細は事務部に確認してください。

製本可能な店は近隣に複数ありますが、構内では岡田製本店（法文2号館地下）、文学部複写センター、生協コピーセンターが取り扱っています。これらの店は、論文の提出時期は混み合い製本に時間がかかることがあります。製本の仕上がりが提出期限に遅れないよう、充分留意してください。

参考文献

- [1] 澤田昭夫. 『論文のレトリック』講談社学術文庫, 講談社, 1983, 330p.